

藤棚

46号

世田谷区深沢 4-10-1
東京学芸大附属世田谷小学校内
青山附属同窓会
<http://aoyama-dosokai.jp>
青山附属同窓会 検索
発行人 森 昭彦
編集人 斉藤研一

平成二十六年年度の同窓会

幹事長 森 昭彦

附属小学校は一八七六年(明治九年)に開設され、

約73%の会員のご住所を把握しています。

二〇一六年三月に創立一四〇周年を迎えます。その小学校の同窓会名簿には、一八八九年(明治三三年)以来の同窓生(高等小学校を含む)のみが掲載されています。それ以前前の記録については、明治二十二年十一月の火災により消失してしまったためです。現在の名簿掲載総数は一五二一八名。そのうち生存会員(高等小学校をのぞく)は九八九一名、そのうち住所が判明している会員は七一九五名で、同窓会として

今年七月十九日度の幹事会において、同窓会長が平井聖会長から庭山正一郎会長に交代いたしました。平井前会長(昭和十七年卒)には長らく会長をお勤め下さり、有難うございました。庭山新会長は昭和三十三年の卒業生で、現在は、あさひ法律事務所のパートナーをされており、ご子息も同窓生です。

さて、今年は三年に一度の懇親会を開催する年にあたっては、小学校の創立一四〇周年が間近に迫っていますので、懇親会を一四〇周年記念に合わせて、来年度に延期することに致しました。小学校の創立記念日は来年度(平成二十七年)末の三月です。同じ年度の秋にと考えております。懇親会は、従来は比較的年配の方が中心でしたが、もっと若い方も参加できるように今年から企画を進める予定です。

別掲の青山会(P.T.A)理事長の稿にもありますように、今年四月から青山荘は閉鎖されています。学校の教育活動に使われなくなったわけですから閉鎖はやむを得ないことです。藤田副校長から、子どもたちの青山荘での経験は青山荘だけで閉じているのではなく、青山荘を目標とした日々の学習の積み重ねの結果としてあるというお話を伺いました。青山荘での教育活動中止は学校として大変な苦渋の決断であったと思います。

同窓生であるなら、青山荘には懐かしい思い出を沢山持っていることでしょう。同窓会で何とかできなかったのか、何とかしてほしいという声も聞こえてきました。同窓会が早いうちに周知してくれば閉鎖されないうちに訪ねたのに、あるいは、永続的に運営することは出来ないとしても、せめてあと半年、一年でも処分を延ばしてお別れに行きたいという方もおられると思います。現段階では設備はいつでも使えるように維持されていますが、そのための経費(単年度で、人件費、税金、地代、諸設備保守、光熱費等で六百万円程度)をどうするかを考えなくてはなりません。青山会(P.T.A)としてはこれ以上の負担は出来ないと、遅くとも今年度末には処分に踏み切る予定とのことです。これほどの費用を同窓会が肩代わりすることもできませんので多くの方に呼びかけて資金を集め、なんとかならないかという意見が出ています。

そこで、同封の別紙に、有志による「青山荘をつづける会」から皆様へのご協力をお願いを載せています。周知期間が極めて短くなってしまう申し訳ありませんが、詳しくは別紙をご覧ください。

来年の「藤棚」は、青山荘特集とする予定です。別掲のように皆様の青山荘にまつわる思い出をどしどしお寄せ下さい。また、建て直し前の青山荘の各部屋にあった(今は食堂の壁に掲げられている)、部屋名に因んだ大きな日本画の額「菊」「松」「竹」「梅」を描いた画家の名前、その由来などをご存じの方がいらっしゃらばお知らせ下さい。



青山荘食堂に掲げられている絵画「梅」

会長就任のご挨拶

会長 庭山正一郎

森幹事長からご要請を受け、このたび会長に就任いたしました。私は、昭和三十三年卒で、担任は故山崎幸一郎先生でした。五年生のとき、下馬から今の深沢の新校舎に移ってきて、校舎の内外の斬新さに感激をしました。田園地帯の真ん中に忽然と立派な建物が建っており、通学路も田畑の間を抜けるような小川沿いを楽しんだものでした。長男も附属小学校に入学しました(昭和五十九年)、クラスの担任がなんと私が三〇年前に生徒として授業を受けていた音楽の高田先生で、そのお元氣な姿に、蝶ネクタイにアコordeオンを持った若きダンディな頃のお姿が重なり、感慨深いものがありました。このように親子二代に亘り、附属小学校にお世話になった立場なので、同窓会の役員を依頼されると、むげにお断りもできず、生来の気の弱さからお引き受けした次第です。

業の基本的な立場は、人様のお世話係と思っています。こうした考えの延長で、弁護士仲間の世話も進んで引き受けてきて、所属弁護士会の会長も致しました。東大法学部では、同じ法曹になっている者の交流と母校への貢献を目指して、東大法曹会を設立して初代の事務局長を務めました。いろいろな因縁で寄り集まった仲間を大事にするということは、社会の基本的な単位を大事にすることで、とても有意義なことであると思っています。同窓会は、同じ学舎で学んだものが、時に集い、時に学び、時に遊び、終生の庭として新しい仲間と出会う続ける場所です。附属小学校の同窓会も長い伝統をもつて活動していますが、終わりが無い活動であるだけに、同窓生が少しずつでも自分ができる範囲でお世話係に参加してもらうことが大事なことと思います。

今年の三月の卒業式には、長男の卒業式以来二十四年ぶりに傍聴して見学をしてきました。長男の卒業式に参列して、私たちの時代のもの之余りに変わった在り方に驚きましたが、その路線がさらに洗練され、多くの生徒の参加型セレモニーともいうモデルが完成に近づいている感じがしました。前会長の平井聖さんが卒業生を励まし、元気づけるお話をされ、勉強になりました。五十六年前の私自身の卒業式における同窓会長の挨拶振りを思い出していました。貴重な時間をいただいたの短時間で、生徒の記憶に残るメッセージを話すことは相当なエネルギーがいります。平井前会長には長い間本当にお役目ご苦労様でしたとお伝えしたく思います。



私は昭和七年(一九三二)三月に青山師範附属小学校を卒業しましたので、九十四歳を過ぎましたが、いまだ足腰も動きますので、年に一、二回は福岡から上京しております。長生きできているのは、同窓各位の余命を頂いたものと感謝しております。

三〇年ほど前に上京の折、取引先の会社役員(附属小学校の卒業生)から、今日は是非にご案内したいと、世田谷小の藤棚を見せられました。昭和の初め、毎日よく遊んでいた藤棚が健在で、こんなに小さかったのかと感無量で動けませんでしたし、よくも青山から移植してくれたとの思いで一杯でした。

「藤棚」に千倉の青山荘のことが記載されていました。皆さんご承知かどうか、青山荘は昭和五年頃、私たちが四年生になる前、父母会(PTA)がお金を集めて古材を主に建てた建物と承知しています。四年生の夏に初めて臨海学校が実施され(参加は任意でした)、一か月間、参加者で共同生活を送ったものです。師範の長谷川校長先生、小学校の桜井主事(当時、校長とは呼びませんでした)も一緒に、賑やかでとても楽しかったことを覚えていますが、私はなぜか五年生の時は参加せず、六年生の時にまた参加しました。午前中は学年ごとに分かれ、私たちは担任の沖山光先生が副読本(万葉集や古今和歌集)の解説をされ、勉強したものです。そのお蔭か、私の二人の娘は古文が一番の苦手でしたが、教えてやることができました。(沖山先生は、戦後、文部省の教科書編成委員になっています)

青山荘の思い出はきりがなく、また当時の建物があるはずもない訳ですが、千倉と聞けば青山荘を思い、当時のゆとりある小学校の生活が思い出されます。当時は、日本中どこにもない唯一の臨海学校だったのではないのでしょうか。今日まで青山荘の維持に尽くされた方々に感謝する次第です。

青山荘の思い出

長 義則

青山会(P.T.A.)理事会より 青山荘の利用停止に関するお知らせ

拝啓 初夏の候、ご卒業生の皆様におかれましては、益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。

青山荘に関する重要なお知らせとして、前号で当時の青山荘の財政状況をお知らせ致しましたが、青山会は臨時総会を開催し、平成26年度青山荘の運営費を計上しないことに関する議案について、賛成多数で可決致しました。このため、現在は青山荘の運営を停止しております。

運営を停止したことに伴い、一部のご卒業生よりご照会事項があったことを受け、青山荘の運営停止に至るまでの経緯や、今後について取りまとめを致しました。是非、ご覧頂きたく存じます。

1. 青山荘の利用停止に至るまでの経緯

平成23年3月11日の東日本大震災を受け、平成23年度は学校行事である青山荘での臨海学校・移動教室、P.T.A組織である青山会傘下の藤の実会主催の

海の家が中止となり、学校行事は別の施設で行われました。平成24年度からは、藤の実会主催の海の家は再開しました。再開にあたり、青山会としては避難経路の再確認、防災備品の再点検、南房総市の放射線量の確認等を行いました。また、この海の家を契機に、青山荘での学校行事の再開の道を探ってまいりましたが、3年連続で行われませんでした。そして平成25年12月、学校は正式に青山荘を利用しない決定を下しました。

青山荘の年間維持費約800万円は、青山会が負担をしてまいりました。この金額は、子どもたちの教育の場として必要であるということと出費しておりましたが、学校の決定に伴い、青山会は年間維持費の予算計上可否について、臨時総会で全校保護者・先生方に対して投票を行い、多数(約8割以上)の方が予算計上を反対したため、今年度より予算計上しないこととなりました。運営費が

無いため、現在青山荘は利用出来ない状況です。

2. 青山荘の今後は?

1で説明した通り、青山荘運営費を負担していない為に利用出来ない状況です。第三者(例えば同窓会等)が運営費を提供すれば、いつでも運営再開することが可能です。尚、運営を停止している間も火災保険料、固定資産税、一部電気代等が発生しているため、一時的に青山会が最低限の費用を支払っております。これらの費用を支払い続けることは出来ないため、運営希望者がいない場合は、数か月以内に処分手続きに入りたいと考えております。

また、学校は現在の青山荘を利用しないことを決めましたが、安全を確保出来る場所が見つければ再び青山荘として利用したい意向があります。今後はワーキンググループを立ち上げ、「新青山荘」建設も含めて検討していきます。その際には、これまで積み立ててきた青山荘建替準備金を充てて行きます。

2014年7月

青山会理事長 白川尚樹

◆青山荘でのイベント検討中

現在、同窓会では、学校と青山会(P.T.A.)にお願いして、青山荘を利用して何かイベントができないものか検討中です。青山荘を見ることが出来る最後の機会になるかもしれません。詳細は、決まり次第、同窓会のホームページにてお知らせいたします。

<http://aoyama-dosokai.jp>



青山荘の思い出 原稿を募集します

次号「藤棚」では、千倉・青山荘にまつわる同窓生の皆さんの思い出を特集します。

移動教室、臨海学校、海の家など、様々な行事で青山荘を利用する機会があったかと思えます。遠泳はもちろんのこと、磯遊びやキャンプ・ファイヤーなど、どんなことでも構いません。「藤棚」の紙面を利用して、熱く熱く、青山荘にまつわる思い出を語ってください。貴重なお写真などもありましたら、お貸し頂ければ幸いです。

ご寄稿、お待ちしております。

◇字数

13字×70行以内(本文のみ)*タイトルを忘れずに。

◇締切

2015年3月末日

◇応募方法

手書き・ワープロのプリントアウトした原稿を郵送。もしくは、同窓会のHP宛てのメールに添付。

◇郵送先

〒158-0008
世田谷区深沢4-10-1
東京学芸大学附属世田谷小学校内 青山附属同窓会

◇同窓会HPのURL

<http://aoyama-dosokai.jp>

附属小学校の近況

副校長 藤田留三丸

2014

【先生の異動】

☆お送りした先生

▽坂井俊樹 校長

本校校長の任期を終え、東京学芸大学に戻られました。

歴史教育および社会科教育が専門でした。また、ご自身

が附属世田谷中学校の社会科教員として教壇に立たれていました。現場での経験と知識、また研究活動を基にした幅広い知見は、私たち教職員にとって大変実効的でした。また、学校生活の様々な面で頂いたアドバイスは、どれも具体的かつ的確で、私たちには実に頼もしい存在でした。

遠足では一年生と鬼ごっこを楽しみ、林間学校では六年生といっしょに山中湖一周ウォーキングにチャレンジするなど、子どもたちと共に過ごす時間が何より楽しそうでした。

た。気さくな人柄は子どもたち

ちに愛され、校長室には小さな訪問客が絶えませんでした。

これからこの学校を優しく、ときには厳しく見守って頂ければと思います。

▽大熊雅士 先生

本校教諭として七年間の在職でした。途中から東京学芸大学教職大学院特任教授を兼任なさいました。学校ではおもに国語と理科の授業を担当し、また、教育相談の専門家としてもご活躍でした。

先生の最大の魅力は、その人間性にあります。興味と関心の対象は限りなく広く、進取の精神に富む姿勢は、教員仲間も大きな刺激を受けました。その影響は子どもたちにも同様で、先生の周りにはいつも子どもたちの輪ができていました。多芸多趣味で、中

でも祭り神輿への没頭ぶりは有名でした。クマさんがそわそわしだすと、三社祭が近づいていることがわかりました。

その他、剣道の有段者、和太鼓は玄人跳、そば打ち名人等々、それぞれが高い水準でした。

忘れてならないのは、東北福島への支援活動です。毎年、裏磐梯でキャンプを開き、福島の子どもたちに元気を与え続けています。

今後は学校と子どもを繋ぐ活動に専念なさることです。新天地でも大活躍間違いなしです。

▽井上陽童 先生
東京都との人事交流期限終了で、公立小学校に戻られました。在職期間は五年でした。

国語教育が専門でしたが、何よりよい授業の追究にこだわり続けた先生でした。時に周囲の先生をその情熱の渦に巻き込みながら進める徹底した教材研究。児童理解における真摯な態度。少しでも子ども

のよい点を見つけて伸ばそうとする姿勢は心に残りました。

た。それゆえに子どもたちからも好かれ、信頼されていたのだと思います。休み時間になると教室の内外から「ようどうセンサーイ」と呼ぶ声、慕う声が響いていました。

運動万能で、特にサッカーではその才能を発揮、教員サッカークリームでは中心選手として活躍しました。また、今までボールを追っていたかと思

と、次の瞬間ギターを抱えて子どもたちと大合唱。イベントでは、ストリートアーティ

スト顔負けの演奏を披露してました。

新しい学校で新しい子どもたちと熱い時間を過ごされていると思います。ご活躍をお祈りしています。

【宿泊行事と青山荘】
現在、附属世田谷小学校の宿泊行事は、四年生から六年生の三学年で実施しています。今年度、四年生は高尾山近郊で移動教室を、五年生と六年生は山中湖近郊で林間学校を実施しました。

宿泊行事の大きなねらいは

「自らの生活は自らつくる」こ

とであり、活動の計画から実施、評価そして次の活動へと連続的かつ積層的に展開されます。この学習の中で、子ども

たちには自立と自律の能力と態度が養われるのです。この考えは、学校目標「思いゆたかに考え深くともに生きる子」、および学校研究テーマ

「子どもとともにつくる学校の創造」の理念と直結するものです。それを具現化する場所が千倉の青山荘でした。

しかし、東日本大震災を機に、活動拠点を青山荘から他の場所に移しました。暫定的にせよ、八〇余年という歴史を重ね、同窓生をはじめとする多くの方々の思いがある青山荘を離れることの意味は重く、様々な意見や感想がありました。

そしてこれまでの間、教員や青山会関係者と議論を重ねながら、青山荘以外の活動場所の検討、および宿泊行事の内容の再吟味に取り組んでいます。

着任のごあいさつ

校長 松浦 執

同窓会のみなさま、はじめまして。平成二十六年年度校長に着任いたしました。

私は大学では理科教育学教室に在職しております。研究室では、理科の内容を中心としたe-Learning、立休映像教材、拡張現実教材など、コンピュータで双方向性を持たせた学習教材を試作しています。他に学級運営のためのツールの制作などとしております。

学芸大に勤める以前は、私立大学の工学系学部で初等的な物理学を教えておりました。二〇年余り前になりますが、ある新入生が物理学実験にAppleの高価なノートPCを持参し、表計算ソフトで実験データからたちまちにグラフを作成していました。つくづく「これからはこれだな」と感じ、授業のためのツールを作りはじめました。しかし当時は、現在のようなインター



ネットは全く想像できませんでした。入学していなくともMITの講義がそっくり学べてしまうなんて…。

子どもたちが社会で活躍するころとなると、二〇〇五〇年ほど先の社会を考えねばなりません。それは大変予測が困難です。子どもたちは、現在の我々が想像もしない未知の社会を切り開いているかも知れません。初等教育に携わる者には、五〇年先の社会を切り開き、持続させる人材を未来に送るという使命があります。現在の問題に対処しながらも、未来に繋げていかねばなりません。同窓会のみなさまの厚いご支援とお知恵を仰ぎつつ、初等教育の挑戦を続けて行きたいと思えます。

附小で頂いた宝物

昭和三十九年卒

与芝 薫
(大貫)

藤の花も盛りをすぎ、今は青々とした葉がのびやかに生い茂っています。毎年この季節になると、附小の大きな藤棚が思い出されます。

私達八十八回生は、早いもので卒業五十年を迎えました。当時、学校の周りは畑ばかりで、正門の前にポツンと田村屋さんがあるだけでした。今歩けば数分の深沢二丁目のバス停まで、思い出せば細い呑川を渡り、虫や草花と戯れながら何分かつて歩いたことでしょう。

一、二年生の担任の亀岬先生。穏やかで柔らかいお声が、私達の小さい心をいつも温かく包んで下さいました。先生のお話を姿勢良く聞けた時や、真面目に一生懸命自習をしている時は、手作りの花丸カードを頂けました。小さい子供にもわかり易く善悪のありようを教えて下さいました。

三年生から六年生までは、高田先生。朝、授業の前に皆

の頭が動くように歌を歌いました。算数の計算のスピード競争、ドッチボール投げなど、様々なことで良く出来た人を、皆の前でほめて下さいました。理科、社会では、一週間毎に提出するまとめノートに、毎回、一言そえて下さいました。バスで通う私達が友達と仲良く元気に運動できるように、下校時間を遅くして下さいました。父母会の時は、母を遊んで待ついてもよかったのですが、外が薄暗くなるまで時間を構わず話し合いが続いたこともありました。

いつもアコーディオンを携えて、遠足の山登りの時も、山頂で高田先生のアコーディオンに合わせて皆でフォークダンスを踊ったことが、今でも思い出されます。心豊かに人として生きる規範を持てるようにと、毎日『クオレ』の読み聞かせをして下さいました。

岩田君、小田君、新沢(昶山)さんとの四人で、二十年



以上前より、オリンピックの年ごとにクラス会を開催しており、前回は皆の還暦祝いを兼ねた会に両先生もご出席頂きました。私達も子育ても終わり定年を迎え、孫を持つ年になりましたが、先生方があらゆることをお考えになり、私達のために日々力を尽くして下さいたかを楽しみ思い出話とともに語り合い、改めて感謝の気持ちで一杯になりました。

私も四歳の双子の孫の子育ても一段落し、四十歳から始めたテニスの試合で全国を回っております。生きていく上の宝物を沢山附小から頂いて、年をとっても前向きに生きる楽しさを持って日々暮らしております。

怖い思い出

昭和四十九年卒 松井 聡

一昔前に「学校の怪談」という映画がはやったことを記憶している人も多いと思う。附属世田谷小学校はかなり古い建物だったので、仮にその手の話があっても驚かないが、夜の学校に幽霊が出るといった噂は、寡聞にも私は聞いたことがない。おそらく児童は夜の遅い時間まで学校にいたことがないので、見たり聞いたりする機会が無いからなのだろう。

それでも怖い思いしたこと有一次だけある。幽霊を見たといった純粋な怪談ではないが、昼間の出来事なのに、かなり怖かったことを今でも覚えてる。

あれは5年生の時ではなかったか。当時は教室だけでなく、学校のいろいろな部屋を掃除することになっており、その時の私は児童館の掃除当番だった。広い児童館ということ、各学年の各クラスから、かなりな人数が来ていたと思う。子どもがやる掃除だし監視の先生もいなかったの、途中からはほとん

ど遊びの時間と化していた。いや、その時のうるさかったこと。あまりにうるさいので、外で遊ぶうかと思つたぐらいである。さすがに児童館の外に出てしまつと、掃除をしていますとは言えなくなるので、それはしなかつたが、うるさくしている当人が嫌になるほど、それはそれはひどい喧噪だった。

そんな名ばかりの掃除の時間がやつと終わつて教室に戻つたとき、スモックを児童館に忘れてきたことに気がついた。幸い一番前の席に置いていたことを覚えていたので、急げば間に合ふと思ひ、私はダッシュで取り向かつた。

息を弾ませながら勢いよくドアを開けて中に入った瞬間、さっきまでの喧噪が嘘のような驚くほどの静寂がそこにあった。うるさいのには閉口だが、静かすぎるのははや不気味である。何か邪悪なものがあるような気がするほどだった。「おつ、あそこにスモックがあるぞ」などと誰か聞いてはいな

いのに、あえて大きな声を出しながら急いでスモックをつかみ、私は後を振り返らずに猛然と教室へと戻つていった。その時はまるで何かに追いかけてられているような気持ちがして、とにかく必死に走つた。教室に戻つたときは、さぞや青い顔を

色褪せない日々

昭和五十九年卒

岩川 有子
(小泉)

ひんやりとした秋晴れの朝、高く吸い込まれそうな青空を見上げるとぴりつと身が引き締まり、なぜか少しさみしい気持ちになります。初めてこの感覚を覚えたのは、小学生の頃、大好きな運動会の朝でした(当時は秋開催)。優勝を目指して

みんなで懸命に練習し本番を迎える緊張感と、今日で終わつてしまふという寂しさが入り混じつた気持ちだったのではありません。毎年よみがえる不思議な感覚です。

三十年。このたび思いがけず寄稿の話を頂戴し、小学校を卒業して以来驚くほどの時間が流れたことを実感しました。しかし、遠い日の出来事であり、

していたことだろう。その時、何も見なくても怖いことがあるのだということを初めて私は知つたのだつた。

今では、これも附属小学校での良い思い出である。

(小学館 児童学習編集部
プロデューサー)

断片的ではあるものの、私の附属小学校での日々は全く色褪せることのない大切な思い出です。

入学式を終え、初めて入った教室で先生のオルガンに合わせて歌つた「アイアイ」。教室の前の庭で飼つていたチャボが産んだ卵の温かさ。壁に沿つて水の中をぐるぐる歩き、みんなで作つた流れるプール。どろり山で楽しんだどろけい。空き缶を山ほど集めて筏を組み、プールに浮かべ乗りこんだ(まる)の時間。千倉の海を泳ぎ切つた後、先生が口の中に入れてくれた氷砂糖の甘さ。夜明けから半日以上かけて登りきつた燕岳頂上での乾杯。演奏しな

がら熱いものが込み上げてきた音楽会での合奏「威風堂々」。雪が舞う校庭で作つた大きな雪だるま。ミヒャエル・エンデの「モモ」から台本を書き起こした学芸会の劇。六年間、折に触れ歌い続けた校歌や美しい藤棚の歌。

独りよがりな思い出をばらばらと綴らせていただきましたが、共感していただける思い出はありましたでしょうか。絶え間なく頭に浮かんでくるのは、恵まれた環境の中でダイナミックな小学校生活を送らせていただいたおかげであると、改めて感謝しています。

私は今、二人の小学生の母親として間接的に二度目の小学校生活を送っています。小学生の頃の自分、両親、先生方、それぞれの気持ちの間を行ったり来たりしながら慌しく過ごす毎日です。子どもたちが大人になり小学校生活を振り返る頃、私が再び親として過ごした小学校生活を振り返る頃、今が鮮やかな思い出として残っているようにしっかりと支え、ともに楽しく大切に過ごしていきたいと思つています。

FACEBOOKで卒業生との新たな絆



元教諭 岡田和雄

私は昭和五十八年四月に二十二年間勤めた附属世田谷小学校を離れ、東京都文京区の小学校に転出しました。その当時、ワープロが発売されたばかりで、卓上型のもので、大きくて重くしかも高価で、まだ一般的には出回っていない時代でした。

現在はPCの普及によりネット上でのBLOG、TWITTERやFACEBOOK

K等で世界中の人達との情報のやりとりが頻繁になり、私もその恩恵を受けていますが、最近では附属小学校や、最後の勤務先東京教育専門学校の卒業生達とFACEBOOKで新しい絆が結ばれ、日常生活の模様を交流し合える楽しさを味わっています。

私が附属小を出る二、三年前から、将来の多様な情報化時代を迎える準備が始まり、その研修や情報処理室の設備

がスタートしていました。私はPC導入前に附属を離れその後の進展は判りませんが、公立学校に行って直ぐにワープロを使い始めました。

きっかけは、手足に障害がある長女が文字を書くために使っていたタイプライターをワープロに切り替え、長女と一緒に私も操作を練習し始めたことです。それが私のワープロ入門でした。

公立学校でも使っている人はまれでしたから、学校からの通信などをワープロからプリントアウトすると、さすがは附属小学校から来た校長だといわれ、ちょっぴり優越感を持つことができました。

平成元年頃から小学校にPCを導入する計画が出されました。まず校長が率先して覚えようと、自分のPCを買って使い始めました。机上にPCやプリンターを並べ得意で

いたわけです。

平成五年、公立学校を定年退職し幼稚園教諭・保育士養成の専門学校に再就職しました。暫くしてWindowsが普及しはじめ、まず事務室に導入され、教員の間でも活用する人達が増えてきました。

その頃私は授業の資料として、現場幼稚園・保育園の幼児の生活や、指導している学生達の活動を小まめに写真に撮ったり8ミリビデオに記録し編集したりしていました。そこに登場したのがデジタルカメラ・ビデオで、PCの利便価値は更に上がり、ビデオ編集も容易にできるようになりました。

専門学校の入学から卒業までの二年間の生活や授業、そして様々な行事を撮影し、それを編集して解説やBGMを

入れた学校見学のビデオ作成までするようになりました。ついでに自分のホームページを作ったり、PC操作が趣味の一つになっていきました。

平成十五年、七〇歳で第二の定年を迎え完全に教職から離れてからもBLOGやTWITTERで近況を書いていましたが、四年程前からFACEBOOKに転向しました。これは見てくれる人達(友達)がいて、その反応も戻ってくるし、簡単に写真を掲載して互いに現況を知らせ合えるなど、毎日PCに向かう最後の楽しみが一つできました。

特に卒業生が私のページを見つけてくれたり、クラス会の折りに話をして即座に友達になることもあり、今では附属小関係、専門学校関係で卒業生の友達が約九〇人に広がっています。

現在私の附属小時代に担任した卒業生は、幼児から大学生までの幅広い家族を持つ年代で、仕事の面でも社会の中心的存在になっています。そして子育ての様子、趣味やス

ポーツのこと、海外出向中のできごと、家族での海外生活や現地の状況など、それぞれの生活や趣味などを写真で紹介してくれたり、沢山の情報を発信してくれたりします。そして喜びを共にしたり、悩みや苦勞があれば励まし合ったりなど、三〇年以上を経た今また新たな絆を通わせています。

いろいろな投稿を見るにつけて、小学生時代の可愛かった姿など沢山の思い出がよみがえってきます。おとなしかった子が海外で奮闘していたり、気弱だった子が社会の第一線で活動をしていたり、やんちゃ坊主が素敵な家庭を築き楽しい生活を送っている様子など、それぞれ成長した姿を垣間見ながら、ネットを通して激励の言葉を送ることができるようにも感じています。

PCのネットコミュニケーションによって、改めて教職四十数年のこれまでの歩みを振り返り、昔の思い出を懐かしむ楽しさを噛みしめている毎日です。

平成25年度(平成25年4月1日～平成26年3月31日)青山附属同窓会 会計報告

2. 経常会計(単位:円)

収入	金額	支出	金額
前年度より繰り越し	13,533,313	藤棚印刷・発送費	1,642,037
		卒業生名簿印刷	28,800
会費(既会員入金分) 162名	810,000	回線使用料	65,888
寄付金	4,000	データ管理費	55,020
会費(新卒入会金) 115名	1,150,000	事務手数料	220,215
		通信費	173,390
銀行利息	1,670	事務用品費	3,304
		慶弔費	19,765
		交際費	8,128
		会議費	6,836
		交通費	1,250
		振込手数料	24,770
平成24年度収入合計	1,965,670	会費返金(二重払い/DVD費)2名分	6,120
		H24ゆうちょ銀行利息修正	374
		本年度支出計	2,255,897
		次年度へ繰越	13,243,086
合計	15,498,983	合計	15,498,983

1. 同窓会基金(単位:円)

収入	金額
前年度より繰り越し	3,300,666
銀行利息	1,045
合計	3,301,711

3. 資産の部(単位:円)

明細	金額
同窓会基金分	
三菱UFJ信託銀行	3,301,711
合計	3,301,711
経常会計分	
三井住友銀行	7,947,016
ゆうちょ銀行	5,193,044
現金	103,026
合計	13,243,086
基金+経常会計合計	16,544,797

会計:岡市 典子、瓶子 可南子 監事:吉原 重和、松本 洋典
監査報告:帳簿類、会計報告書を監査の結果、適性であることを認めます。 監事:吉原 重和 印 松本 洋典 印

同窓会ホームページのアドレスが変わりました！

新 <http://aoyama-dosokai.jp>

(旧 <http://www.u-gakugei.ac.jp/~doso/>)

ブックマーク・お気に入り登録の変更をお願いいたします。

● 懇親会延期のお知らせ

これまで同窓会では、三年に一度、秋に懇親会を開催してきました。今年は、その開催年に当たるので、その開催年にもありますように、文章にもありますように、来年度末(二〇一六年三月)に小学校が創立一四〇周年を迎えるのに合わせて、懇親会も来年度に延期することになりました。

開催時期・場所等については未定ですが、多くの同窓生の方々に参加していただけるよう、企画していきたいと考えております。乞う、ご期待。

編集後記

◆ 青山荘に関する最新情報については、リニューアルされた同窓会のホームページにて、逐次、お伝えしていけたらと思います。

◆ 前号の青山荘についての記事をご覧になって、長さんか

◆ 本年度の同窓会役員

会長 庭山正一郎(昭和三十三年)
顧問 清水嘉男(〃二〇年)
福西武子(〃二〇年)
幹事長 森 昭彦(〃三〇年)
会計監事 吉原重和(〃三五年)
松本洋典(平成 八年)
常任幹事 小野聖穂(昭和二十九年)
古川 一郎(〃三一年)
幣原 廣(〃三七年)
木下智子(〃四〇年)
鈴木淳生(〃四三年)
浅尾博之(〃四五年)
岡市典子(〃五三年)
斉藤研一(〃五四年)
野口尚志(〃六三年)
瓶子可南子(平成八年)
日野真毅(〃二五年)

らは、早速に青山荘の思い出の文章を寄せていただきしました。皆様からのたくさんのご寄稿、お待ちしております。

◆ 卒業後五〇年を迎えられた与芝さん、四〇年の松井さん、三〇年の岩川さん。何十年たっても鮮明に残っている思い出を、ありがとうございました。

(編集者・斉藤)